

Labo News

らぼニュース

発行所 公益社団法人愛知県臨床検査技師会
 住所 名古屋市中村区名駅5-16-17
 花車ビル南館 〒450-0002
 電話 052-581-1013
 F A X 052-586-5680
 ホームページ <http://www.aichi-amt.or.jp/>
 Eメール aamt@aichi-amt.or.jp
 取引銀行 三菱UFJ銀行 柳橋支店
 普通口座731-677
 発行人 中根生弥
 編集人 武山純也

No.439 目次

- ◆2018健康救急フェスティバルに参加して… (2)
- ◆輸血検査研究班 基礎講座に参加して… (3)
- ◆地区だより…………… (4)
- ◆訃報 岩田典和技師を偲ぶ…………… (5)
- ◆平成30年度全国「検査と健康展」
ボランティア募集について…………… (6)
- ◆日臨技中部圏支部
生物化学分析検査研修会…………… (7)
- ◆研究会…………… (7)
- ◆AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
通信 (第56回) …………… (8)

学術部門の活動紹介

副会長 (学術部門担当) 岡田 元

愛知県臨床検査技師会は公益社団法人として県民の福祉に奉仕する使命があり、会員である我々は高品質な臨床検査を提供することで県民の健康に寄与しています。

そして学術部門では愛知県民が、「いつ」、「どこで」臨床検査を受けても保証された臨床検査結果が得られることを目指し、検査の基盤となるガイドラインの整備と普及、臨床検査技師が変化する医療に対応できるスキルを取得する研修、臨床検査技師が提供する検査品質を客観的に評価し問題点を改善する事業を展開しています。

基盤となるガイドラインは県の医師会、病院協会、4大学病院、健康福祉部と当会から構成される愛知県臨床検査標準化協議会 (AiCCLS) が担っています。別団体ですが学術部門から担当者を輩出し担当理事がとりまとめ、臨床検査に関するガイドライン、リーフレット等を作成する実作業を行っています。

研究班活動が中心となる学術部は様々な研修会を企画開催し臨床検査技師として必要なスキルを身につける手助けをさせていただいています。また研究班合同で日当直を行う前に取得してほしいスキルに限定した新人サポート研修、様々な部門から症例を考えるベテラン向けのスキルアップセミナーも開催しています。研究班毎の研修会とはひと味異なる観点から考えることができると、大変好評をいただいております。

皆さんの臨床検査スキルを精度管理事業部で客観的評価を行っていますが、当会では改善サポートを目的とした結果検討会をあわせて開催しています。各研究班のベテランスタッフと問題点を一緒に検討する機会であり、また日常業務の疑問点、問題点も含め様々な相談や情報交換ができる有益な会となっています。

今年度から「医療法の一部改正」で検査室が行うべき事が規定されるようになりました。皆様の相談相手となり小規模施設でも対応できるように、精度管理調査のバージョンアップと書類整備サポート体制の構築を検討していますので、「らぼニュース」の案内を注視して下さい。

紹介した学術部門の事業は参加していただいた方々から大変な好評をいただいております。皆様も積極的に参加していただき、学術部門と一緒に県民の健康に寄与できることを願っています。

2018 健康救急フェスティバルに参加して

春日井市民病院 吉崎 まゆ

平成30年9月2日(日)に春日井市総合体育館で開催された、健康救急フェスティバルに参加させていただきました。このイベントは「健康の日」と「救急の日」にあわせ、春日井市民の皆様の健康づくりの知識を広げるとともに、救急活動への理解を深めることを目的に、春日井市主催で開催されました。当技師会は、全32のブースのひとつを担当し、採血体験とリトマス試験紙によるpHの実験、水性ペンを使ったクロマトグラフィーの実験を行い、延べ266名の方に参加していただきました。

採血体験では、模擬腕を使った採血体験とスタットベイン（非接触型静脈可視化装置）を使って自分の血管を観察する体験をしていただきました。体験された方からは「採血は難しいね」、「血管を探すのはたいへんだね」との声をいただきました。

pHやクロマト実験では、子供たちが熱心に参加してくれました。これらの原理が医療の分野でも応用されていることを説明しました。ご両親からは、「来年の夏休みの自由研究に使いたい!」との意見をいただき好評でした。

私は、昨年行われた“全国検査と健康展”に続きこのような市民向けイベントに参加しましたが、一般の方に自分が日頃行っている検査を説明することの難しさを痛感しました。今後も研鑽を積んで検査の説明ができる技師となれるよう、努力してゆきたいと感じました。



輸血検査研究班 基礎講座に参加して

医療法人赫和会 杉石病院 山口 佳代

平成30年7月29日(日)に開催された輸血基礎講座に参加させて頂きました。

今回、実技講習はありませんでしたが、これで6年連続の参加になります。

私が勤めている病院は小規模病院で、輸血を必要とする患者様は月に5～10名くらいです。輸血業務に関する検査は、血液型検査、カラム法にて不規則性抗体のスクリーニング検査、クロスマッチのみ実施しており、輸血専任技師はいません。特殊な血液型や、不規則性抗体の同定が必要な場合は、外注先に検査依頼しています。実際に、次にどのような検査が必要で、どのような手技で検査が行われているのか、なかなか理解するのが難しい状況のため、基礎講座(実技講習会)に積極的に参加することにより、少しでも検査の流れを理解して、スムーズに結果の解釈がしたい、そして日頃行っている手技の確認がしたい、また不安な気持ちを抱きながらではなく、自信を持って結果の報告がしたいと、習得への期待を抱きながら毎年参加に望んでいます。

今回の基礎講座は、午前中に『血液型』『不規則性抗体』『交差適合試験』についての講義があり、大変理解しやすく解説して頂きました。午後からは、午前中の講義内容を踏まえた3例の『症例検討』が出題され、各自設問にチャレンジした後、4人1グループになり、ディスカッションを行い、グループ内で出し合った考察を代表者が発表するといった、毎年恒例の形式で行われました。私と同じグループには、大規模病院で輸血業務専任技師をされている方や専任でない方がいて、経験年数も様々でした。また、検査室で運用している機器や検査方法、扱っている試薬や血球の種類、数も違いました。おのおのの施設で、症例のような異常反応が出た場合、どのように対応しているかを知ることができ、当院のように検査試薬や赤血球試薬の種類が少なくても、参考になる意見を沢山聞くことができました。

症例の中には、不規則性抗体同定検査で『パネル赤血球、自己対照すべてにおいてIAT3+の結果を認めた時、3ヶ月以内に輸血歴のない場合、輸血歴のある場合、それぞれの追加検査は何を行うか?』という質問には、正直硬直してしまいましたが、実際このような症例に遭遇したことが無い方だけを集めて、親切に分かりやすく特別ミニ講習をして頂いたことにより、緊張もほぐれ落ち着いて理解できました。また、質問がしやすい環境で良かったです。

輸血を必要とされる患者様の血液は、時に異常反応を示す場合があります。各病院の設備や環境、出来る検査内容も様々であり、当院でも、出来る検査の限界を感じる事もあります。今回、グループ意見を出し合った時に、複数の対応方法を聞くことができました。『何が正解ではなく、今ある状況で、患者様にとって最善な方法は何かを考えながら、検査を進めて、臨床側に報告するということが大事』と、繰り返しお話をされていた班員の方の言葉がとても印象に残った基礎講座でした。



一宮西病院の紹介

臨床検査科 足立 翔里

一宮西病院は一宮市の北西部にある奥町に平成13年に開設されました。その後、診療科の充実と救急医療への取り組みを通じ、地域の急性期医療を担う病院として機能を高めてきました。地域の多くの皆さまに利用していただくには、外来・入院機能とも急速に手狭になってきたことから、平成21年11月、現在の開明地区に新築移転いたしました。平成20年に「いまいせ心療センター」開設、平成21年には「尾西記念病院」が開設され、奥町にある「上林記念病院」と合わせて4つの病院グループとして尾張西地区の地域医療に貢献しています。

当院の臨床検査科は医師1名、臨床検査技師27名、クラーク4名が協力し、担当医の先生がより良い医療を患者様に提供できるよう日々サポートしています。臨床検査は、そのカバーすべき分野が幅広く、現在の医療には欠かせない役割を担っています。精度の高い検査結果を常に安定して出せるよう活動しています。「24時間365日、いつでもどんな怪我や病気も断らない」「最新の設備と高度な医療技術の提供」「患者さま中心のきめ細かい医療サービスの実践」という病院基本方針で、地域のすべてのみなさまに開かれた病院、頼られる病院を目指して、今後も継続して地域医療に貢献していきます。



2018年9月10日現在 正会員数 3,352名



岩田典和技師を偲ぶ

8月19日早朝、当院 生体検査の岩田典和技師が尊い命をおとしました。職場から自宅に帰る途中のバイクでの事故でした。57歳の夏でした。

私がこの訃報を聞いた時、最初は、この突然の事態を把握することができませんでした。

なぜ？こんな早朝に、職場からの帰りって？なぜ？休日なのに…

岩田典和技師と私は、大学からの同級生です。勤務先も同じで、長い付き合いです。彼は学生の時から、「がんた」「がんちゃん」と呼ばれて親しまれていました。

がんちゃんの日課は、毎朝5時すぎに自宅を出て、6時には職場に着きます。それから、病院が起動するまでの間、生体検査の機器を立ち上げたり、返還されたホルター心電図の処理をしたり、管理表や当番表の作成をしたり。同僚や部下が出勤したときには準備万端になるようにしていました。これだけ聞けば、なんて勤勉で、縁の下の仕事を支える真面目な働きぶりということになりますが、彼のモットーは、仕事は定時で帰る。資格取得のために勉強したり、学会発表なんてしない。少し我儘で、すごく几帳面なところもあり、マイペース、我が道をゆくというスタイルでした。

でも、日曜日の朝までも、職場に準備に行ってい

たなんて、私は知りませんでした。

やっぱり、仕事は好きで、他人から頼まれたわけではないけれど、自分にできることをライフワークとしていたのだと思います。

がんちゃんの好きなことは沢山ありました。車、バイク、電車、カメラ、天体観測、お酒、そうそう、献血も趣味のひとつ、日本全国の献血センターを回って、あの県の記念品は良いの、悪いの、楽しそうに教えてくれました。全国制覇まで、あと1県だったのにね。

まだまだ、やりたいこと、やらなければならないこと、いっぱいあったのにね。

今年、9月8日に同窓会があります。がんちゃんも参加予定でした。卒業以来、会っていない同級生との再会を楽しみにしていました。なのに、がんちゃんの通夜・葬儀が、奇しくもプレ同窓会となってしまいました。こんなふうに再会しなくなかったね。遺影のがんちゃんは、少し申し訳なさそうに、いつもものにはかんだような笑顔で微笑んでいました。

合掌

名古屋第二赤十字病院
瀬古 周子



平成30年度全国「検査と健康展」ボランティア募集について

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会は、臨床検査についての正しい知識とその普及・啓発を行うことを目的に、毎年11月を「臨床検査と健康・普及啓発月間」と定め、平成25年度より、全国「検査と健康展」を各都道府県技師会と共に全国展開しています。愛臨技におきましても今年度は下記要領で開催することになりました。

つきましては、愛臨技会員から参加者の受付や案内などのボランティアを募集致します。是非ともご協力をお願いいたします。

【検査と健康展 開催概要】

日 時：平成30年11月18日(日) 10:00～15:00
場 所：イオンモール熱田 1F イベントスペース
名古屋市熱田区六野一丁目2番11号
金山総合駅から南東に徒歩約15分です

事業内容：

- ①臨床検査紹介・体験コーナー
 - ・臨床検査技師業務紹介
 - ・臨床検査技師養成大学紹介
 - ・細胞を顕微鏡で観察
 - ・超音波検査を使ったデモ
 - ・臨床検査に関するクイズ
- ②衛生及び検査に関わる指導や実技
 - ・無料検査（骨密度、血管年齢等）
 - ・臨床医師による健康アドバイス

主 催：一般社団法人日本臨床衛生検査技師会、公益社団法人愛知県臨床検査技師会

共 催：日本臨床検査専門医会、臨床検査振興協議会

後 援：厚生労働省、日本医師会、日本看護協会、日本病院会、全日本病院協会、日本臨床検査医学会、日本臨床検査薬協会、日本臨床検査薬卸連合会、日本衛生検査所協会



【ボランティア 募集概要】

募集内容：10名程度（交通費及び食費支給、1回の事前会議あり）

業務内容：会場設営、受付、案内等

申込方法：①会員番号②氏名③施設名（自宅会員は住所および電話番号）

④メールアドレス

以上を記入のうえ、下記メールアドレスへ送信をお願いいたします（郵送も可）。

生涯教育履修点数：基礎教科 20点

申込締切：平成30年10月26日(金)

連絡先：〒470-1192 豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98

藤田医科大学（旧藤田保健衛生大学）医療科学部

刑部 恵介（オサカベ ケイスケ）

TEL：0562-93-9430

E-mail：kosakabe@fujita-hu.ac.jp

日臨技中部圏支部 生物化学分析検査研修会

専門教科：30点

日時：平成30年12月8日(土) 12:00～
平成30年12月9日(日) 11:40

場所：岐阜大学サテライトキャンパス
多目的講義室(大)
岐阜市吉野町6丁目31番地
岐阜スカイウイング37 東棟4階

テーマ：合目的的なMedical Science

申込締め切り：平成30年11月26日(月)

詳細は愛臨技HP研究班活動または日臨
技HP日臨技支部情報(お知らせ、研修会、
支部学会)をご覧ください。

研 究 会

生理検査研究班

専門教科：20点

日時：平成30年11月17日(土) 15:00～17:00

場所：名古屋第二赤十字病院 研修ホール

テーマ：呼吸機能検査に必要な薬剤の知識

講師：1. 喘息治療薬
公立陶生病院 薬剤部 宮島 紀彦
2. 症例報告 ～呼気NO測定～
刈谷豊田総合病院 鈴木 優大
3. 症例報告 ～気道可逆性試験～
藤田保健衛生大学病院 関根 秀治

司 会：公立陶生病院 大竹 悦子

内 容：呼吸機能検査を行う代表的な疾患に気管
支喘息があります。喘息の治療に用いら
れる薬剤が、検査の結果にどのような影
響があるのかを学びましょう。

研 究 会

輸血検査研究班

専門教科：20点

日時：平成30年11月17日(土) 15:30～17:30

場所：名古屋市立大学病院
中央診療棟3階大ホール

テーマ：慌てない！自己対照陽性(DAT陽性)
になった時の対応

講師：1. 直接抗グロブリン試験の臨床的意義
と検査の進め方

春日井市民病院 神野 洋彰

2. 自己対照陽性の症例について

日本赤十字社

東海北陸ブロック血液センター

加藤 静帆

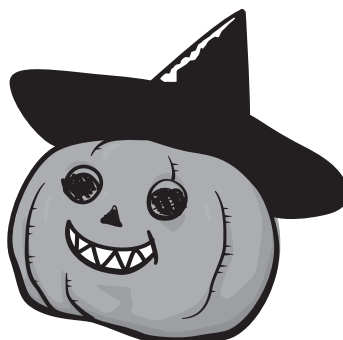
3. 多発性骨髄腫治療薬(抗CD38)投
与患者の輸血検査と対応

JA愛知厚生連 海南病院

沖 かずよ

司 会：安城更生病院 山本 喜之

内 容：自己対照(直接抗グロブリン試験：
DAT)が陽性になった場合、自己対照
のみか？他の赤血球にも反応が見られる
か？その場合の反応は一樣か？特異性が
あるか？このように様々な反応性が見ら
れ、その対応に苦慮するケースが多いと
思います。今回は苦慮する様々なケース
への対応に役立つようにDAT陽性の臨
床的意義や検査方法の概論、実際の症例
そして最近話題になっている多発性骨髄
腫治療薬投与患者への対応について解説
していきます。多くの参加をお待ちして
おります。



AiCCLS

愛知県臨床検査標準化協議会

通信 (第56回)

愛知県臨床検査標準化協議会 (Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization : AiCCLS) は、愛知県下の医療施設への臨床検査標準化の啓発活動を軸とした質の高い検査結果の共有維持を目的として、活動しています。

今回は、新しく発行された刊行物のうち、「細胞診アトラス」についてご紹介いたします。

これから細胞診を学ぶ初心者から経験を積んだベテランまで幅広く活用できるように細胞画像を多数取り入れて編集しました。日常業務のなかで多くの方に活用して頂けると幸いです。今回は、呼吸器シリーズ (良性・炎症) として“単純ヘルペスウイルス感染”と“アスペルギルス症”を添付しました。今後、順次あらたなアトラスを作成していきますのでご期待ください。

詳しい内容、購入方法については、愛知県臨床検査技師会HPの臨床検査標準化情報をご覧ください。

(AiCCLS : 愛知県臨床検査標準化協議会)

単純ヘルペスウイルス感染

AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
細胞診アトラス「呼吸器シリーズ」(7)

患者年齢 70 歳代 性別 女性 検体種類 気管内痰液
臨床所見 胸部異常陰影

【判定】 陰性

【細胞所見】

単純ヘルペスウイルス (human simplex virus: HSV) 感染細胞は、ライトグリーン好性で厚みの増した細胞質を有する大型細胞で、多核化や核の圧排像を呈している (写真 1~4)。核クロマチンは連続して凝集し、内部はスリガラス様またはオパール様で、核内対入体を見る細胞も混在している (写真 4 矢印)。

【細胞診断のポイント】

HSV と HSV 以外のウイルス感染症 (水痘帯状疱疹ウイルス (varicella-zoster virus: VZV) 感染やサイトメガロウイルス (cytomegalovirus: CMV) 感染など) との鑑別に免疫染色が有用である。形態学的には、HSV 感染細胞は多核化やスリガラス様核、核圧排像が認められるが、CMV 感染細胞は単核~二核の特徴的な巨細胞対入体として観察される点などで鑑別される。また、肺の HSV 感染は比較的まれであるため、呼吸器材料に認めた場合は口腔の HSV 感染細胞の混入も考慮に入れ、口腔ヘルペスの検索も必要である¹⁾。

【定義・概念】

HSV は、DNA ウィルスであるヘルペスウィルス科に属し、1 型 (HSV-1、学名は human herpesvirus type 1: HHV-1)、2 型 (HSV-2、学名は human herpesvirus type 2: HHV-2) の 2 種がある。口唇ヘルペス、ヘルペス口内炎、角膜炎、ヘルペス脳炎は HSV-1 の感染によるのに対して、生殖器ヘルペス、新生児全身 HSV 感染症は HSV-2 によることが多い²⁾。

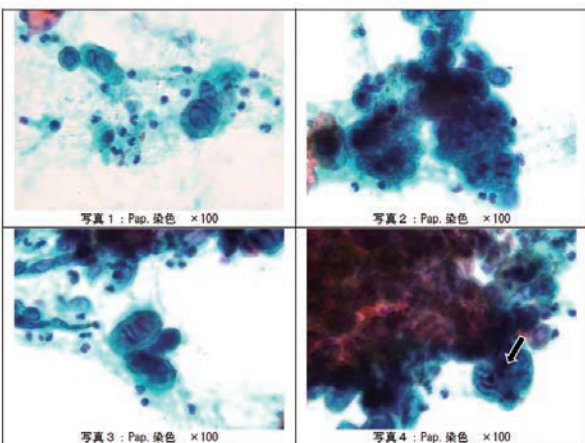


写真 1 : Pap. 染色 ×100

写真 2 : Pap. 染色 ×100

写真 3 : Pap. 染色 ×100

写真 4 : Pap. 染色 ×100

Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization

アスペルギルス症

AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
細胞診アトラス「呼吸器シリーズ」(9)

患者年齢 60 歳代 性別 男性 検体種類 気管支洗浄液
臨床所見 胸部異常陰影

【判定】 陰性

【細胞所見】

背景には好中球を主とする炎症細胞の浸潤を見る (写真 1)。その中にライトグリーンに染色する幅約 5 μm の菌糸を認める (写真 2)。この菌糸にはしっかりと隔壁を認め、カンジダの仮性菌糸のような真菌細胞間のくびれは見られず、真性菌糸と考えられる。また、菌糸は Y 字状に分岐して一定方向へ伸長増殖している。アスペルギルスの菌糸を認める所見である。グロコット染色により菌糸形態はより明確となる (写真 3)。アスペルギルスは、肺空洞や気管支内腔など空気の豊富な部位で増殖した場合に、特徴的なホウキ状の分生子頭が形成される (写真 4)。

【細胞診断のポイント】

カンジダとの鑑別に迷う場合があるが、カンジダの仮性菌糸は丸く細めで、菌糸と菌糸の接合部はくびれてワインナー状を呈し、アスペルギルスの真性菌糸とは異なる像を呈する。さらに、カンジダでは菌糸につながる酵母様の菌体も観察されることから、アスペルギルスとの鑑別は可能である。

【臨床所見】

侵襲性アスペルギルス症は免疫機能が低下した宿主に日和見感染として発症し、アスペルギルスの組織内浸潤をみる予後不良の疾患である。広域抗菌薬不応性の発熱、咳嗽、血痰、胸部 X 線像にて楔状陰影、胸部 CT 像にて halo sign や air crescent sign、血液検査にて β-D-グルカン上昇、ガラクトマンナン抗原陽性を示した場合に本症例を疑う¹⁰⁾。喀痰、気管支洗浄液、気管支肺泡洗浄液から真菌学的、病理学的にアスペルギルスを証明することで確定する。

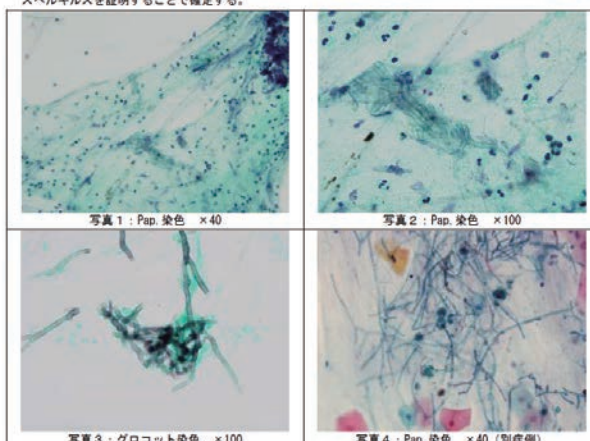


写真 1 : Pap. 染色 ×40

写真 2 : Pap. 染色 ×100

写真 3 : グロコット染色 ×100

写真 4 : Pap. 染色 ×40 (別症例)

Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization